理科系班ＯＢ会に22人参加

ＮＨＫ気象キャスター　関嶋梢さんも

昨年、ＮＨＫの気象キャスターである関嶋梢さんが母校天文班のＯＢであることが判明した。当ＯＢ会では「来年こそ彼女に参加してもらえるように幹事長は交渉せよ！」との決議がなされた。あまにも有名で多忙を極める人なので、恐る恐るお誘いした。

「案ずるより産むがやすし」で、快く参加を承諾してくれた上に、同世代の天文班ＯＢ２人も誘って参加してくれることになった。この結果、今回は総勢22人もの参加者が得られた。予定した会場では狭くなってしまい、急きょ隣の「浜の母や銀座店」に会場を変更して８月29日に開催した。

最初、中島宏氏（化学班）に小講演「中国概観」を行なっていただいた。さすがに元共同通信社北京支局長である。建国60年の歴史と最近の諸問題の概観を分かりやすく説明された。

次に、初参加者７人を中心に自己紹介を行い、懇親会に移った。今回も、学位を有する者７人（５分野）が参加していたので、高度で幅広い分野にわたる異業種交流ができ、年齢差46歳をものともせず、和気あいあい実に有意義で楽しい一夜であった。

参加者は恩師の清水周先生（47期）をはじめ、化学班の中島宏（51）大塚教夫（53）河原田和夫（55）児玉三明（56）宮原廸雄（57）高橋福幸（58）矢嶋瑞夫（58）萩原清人（59）古平明尚（82）清水文彰（82）、物理班の丸山瑛一（51）中澤晃（56）濱村邦夫（56）、天文班の吉澤壮夫（53）成沢広行（64）滝沢裕雄（82）廉澤誠司（93）関嶋梢（93）竹内雅典（93）、生物班の堀内忠久（53）、電気班の石井則男（64）の各氏。電気班は今回が初参加で、残るは写真班だけである。

次回は２０１１年８月末に開催する予定です。案内状を送りますので、これらの班に多少でも加入した人はご連絡ください。

yoshiyuki-taka@mte.biglobe.ne.jp
電話　046-285-1086
幹事長　高橋福幸（58期）

中山道69次を歩く（４）

長久保宿から宮ノ越宿まで

中山道の旅は、10月で13回を数え、参加者も実人員14人、延べ84人になりました。だんだん、にぎやかになり、楽しい歩き旅です。第10回は、御柱祭が終わって静かになった5月29日。長久保宿の落合橋でバスを降り、和田宿まで歩く。沿道のバス停はかやぶき屋根で街道情緒たっぷり。

和田宿は幕末の大火で焼失したが、和宮降嫁を受けて再建されたとのことで、本陣、旅籠屋など昔の宿場が今に残る。

旧旅籠屋だった本亭旅館に泊り、早朝、中山道一の難所といわれた和田峠に向かう。和田峠頂上への道は険しいけれど良く整備されていて、石畳みの道を歩き、永代人馬施行所、東餅屋で休み、標高１６００㍍の頂上に着いた。

ところが、下諏訪宿までの下り道が悪路で大変だった。下社春宮にたどりつき、万治の石仏の周りを３回まわって一息入れた。下諏訪宿本陣は京風数寄屋造りの客殿と庭園が往時のままに維持され、公開されているのがすばらしい。そして、疲れたわれわれを秋宮の真新しい御柱が迎えてくれた。

奈良井宿

第11回は、下諏訪から塩尻峠を越えて塩尻宿まで。塩尻峠の上の展望台からは、あいにく富士山は見えなかったが、諏訪湖が眼下に広がり、雲の切れ間に八ヶ岳が見え、すばらしい景観だった。

第12回は、８月29日、セ氏34度の炎天下を、塩尻駅から桔梗が原のブドウ畑の中の道をたどり、洗馬宿へ。義仲の馬を洗ったという清水で手を洗い、のどを潤し、一路、中山道を歩き、本山宿に着く。本山はそば切り発祥の地とのこと。そばづくしの宿場御膳に大満足だった。

第13回は、10月16日、贄川駅から、木曽路北端の贄川宿へ。尾張藩の番所で、女改めと木曽木材の密移出を取締ったという贄川関所が復元されている。

漆器の里、平沢を通り奈良井宿へ。かつて、奈良井千軒、と呼ばれ栄えた街並みが今も残る。

弥次喜多も泊ったという旅籠「ゑちごや」に泊り、翌日、鳥居峠を熊よけ鈴を鳴らしながら難なく越えて薮原宿へ。

薮原宿では「お六櫛」の効能を聞かされ、買い求める。

次の宮ノ越宿入口までの道は、旧中山道が国道に吸収され、大型車がビュンビュン走るので最悪の歩き道だった。宮ノ越は木曽義仲挙兵の地。義仲館が建てられ、入口には義仲と巴の像が並んでいた。

清水計枝（64期）